

平生町教育委員会会議 会議録

- 1 開 会 令和8年7月29日（水） 午前9時
- 2 場 所 平生町役場2号棟3階 大会議室
- 3 出席者 教育長 中本 稔
委 員 伴 浩一・富田 克敏・河内山 裕子・廣池 康子
- 4 事務局 学校教育課長兼新しい学校づくり推進室長 久保 秀幸
社会教育課長 岡本 治典
- 5 書 記 新しい学校づくり推進室室長補佐 岩田 成司
- 6 議 事

教育長 これより本日の平生町教育委員会会議を開会いたします。
日程第1 会議録署名委員の指名を行います。
会議録署名委員は、教育委員会会議規則第18条の規定により、富田委員と廣池委員を指名いたします。
よろしくお願いいたします。
続きまして、日程第2 議案第1号 教育委員会所管分の令和8年度平生町一般会計補正予算の件を議題といたします。
事務局からお願いします。

学校教育課長兼新しい学校づくり推進室長

それでは、お手元に資料を配布しておりますが、資料の2ページをお開きいただきたいと思います。

新しい学校づくり推進室から、9月の補正要求として、学校づくりにおける視察を考えているところでございます。

金額は後ほどお話しをさせていただきますが、今、私たちの方で考えている候補地として、九州、このタイミングでの九州になりますけれども、3カ所ほど検討しているところでございます。

1つ目は福岡県の嘉麻市でございます。

場所的にはちょうど福岡県の中央部に位置するところでございまして、人口は約3万3千人ということでございます。

義務教育学校という形で、今から3年前に開校しているところでございます。

一番右のように、9 学年の動線、低学年高学年中学生、そういったエリアの分け方、それからスクールバス等の実態を見ることができるのではないかという思いをしております。

それから2つ目には、築上町という町でございまして、右側の日豊本線の方に行きまして、小倉から約50分のところにある町でございまして、本町に近い人口規模ということで、人口約1万6千人ということでございます。

ここは、施設一体型の一貫校という形で進めておりまして、右のように地域コミュニティとの関係を重視した学校整備がなされているところでございます。

それから3番目には佐賀県玄海町、それらの候補地3つとして、今、町としては来年度に向けて基本計画を作っていかなければいけないという思いをしております、そういった学校の制度設計、それからこういった施設にするっていう施設整備、それからこういった学校運営をするべきなのかという方向性を、私たちもだんだん具体化していかなければいけないということで施設に行きたいという思いをしております。

校舎の機能、それからこういった施設の配置になっているか、それから管理、それから地域連携との取り組み、防災機能等について、現場で皆さんから情報をいただきながら、今後の計画、設計に生かしていきたいという思いをしております。

一番最後に文章にしておりますように、学校づくりというのはまちづくりに資する重要なものであるというふうに私たちは思っておりますので、この視察をぜひ実現させていただきということで、9月の要求に向けて今取り組みを進めているところでございます。

資料の1ページでございすけれども、そこに関係するところへの謝礼、それから旅費を約10万円要求させていただく形で今考えておりますので、お伝えをしておきたいと思ひます。

社会教育課長

それでは、続きまして社会教育課の方から9月の補正ということで、1点。

資料の4ページ、5ページをご覧ください。

実は6月末の大雨によりまして、こちらの写真、あの神花山古墳の登山道というか、入口の本当5、6メートル行ったところなんですけれども、ここが崩土しまして、落石もございす。

今、入口の方は閉鎖して上がれないようにしておりますけれども、これの改修をするということで、9月の補正予算として見積額24万5,447円なんですけれども、30万円、これを上げさせていただいております。

修繕としましては、ここに柵を設けて、これ以上土が流れない、落石しないというような簡単な改修にはなるんですけれども、これをお願いしているところでございます。

以上です。

教育長 委員さん方、本件について何か質問はございますか。

よろしいですか。

なければ、議案第1号について、承認される方の挙手をお願いします。

ありがとうございます。

挙手全員です。

よって、議案第1号 教育委員会所管分の令和8年度平生町一般会計補正予算については、全会一致で承認されました。

それでは、続きまして日程第3 議案第2号 教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価の件を議題といたします。

事務局からお願いします。

学校教育課長兼新しい学校づくり推進室長

地方教育行政の管理及び運営に関する法律というものがございまして、この第26条の規定に基づきまして、決算終えたところで外部の皆さんに評価をしていただくということを行っております。

皆さんには、この内容で、一定の評価、承認をいただく形で外部評価委員の皆さんに資料を提出したいと思っておりますので、お伝えをしておきたいと思います。

それでは資料の6ページをお開きいただきたいと思います。

評価をしていただく、点検をしていただく内容としては、6ページの一番左上に施策評価シートというのがあります。

6ページとそれから10ページです。

学校教育課としては、その2つの施策評価シートがございまして。

その施策の中に、事業評価シートというのが7ページ、8ページ、9ページです。

2番目の施策については11ページ、12ページ、13ページという形で事業評価を添付しておりますが、施策の評価シートについて学校教育課としては2点ありますので、1点ずつお話しをしたいと思います。

6ページでございますけれども、本町の総合計画に沿った形で、一番上に基本目標、それから施策を設けております。

施策としては、知・徳・体の調和のとれた子どもの「生きる力」の育成ということを目指しておりまして、3番目の成果指標というのが真ん中辺にあるかと思います。

文字が小さくて申し訳ございませんが、3つほど指標を設けております。

全国学力・学習状況調査の平均正答率、それから自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合、それから3つ目には体力、運動能力等のその体力の合計、この3つの指標を掲げておりまして、その3つの上段にはそれぞれ目標、下段には実績という形で、7年度の実績、決算終えた段階での実績をそこに記載をしております。

1番最初の全国学力調査のところでは、平均を上回るという形で目標をそれぞれ設定しておりますが、実績のとおり下回るという結果になっております。

それから自分のよいところという意味では、目標を増加させる。

これは、実績としては小学生中学生としては数字の上では達成をしたという分析をし

ております。

それから3つ目の体力の合計点ですが、中学2年の男子がちょっと矢印が下の方に向いておりますけれども、ちょっと達成はできていないというところで、その辺りを踏まえたら、4番の評価時の現状と課題というのをこういう形で私たちは見ております。

学力面では、小学校については国語が全国平均並み、算数は全国平均をやや下回っている、中学校については国語、数学ともに全国平均を下回っているという現状でございます。

自己肯定感については、全国や県と比較しても高い数字にはなっております。

3番目の体力については、課題であった柔軟性の記録が向上したことによって、内容的には増加している部分もあるという現状があります。

それに対して課題も持ち合わせておりまして、学校が楽しい、授業がわかりやすいといった回答が多くなるよう、教員が授業改善に努めることのできる時間を確保する必要があると思います。

考えを出し合い、話し合い、助け合ったりしながら学んでいくような共同的な学びを充実させていく必要がある。

体力向上の取組みについては、小学生の段階から、家庭や地域と連携しながら、運動習慣づくりに引き続き努める必要があるという課題の分析としております。

その施策の方向性で、5番目にあげておりますように、友だちと関わり合いながら自分の考えを深めていけるよう授業改善を進める。

それから、家庭や地域と連携して、運動習慣づくりに努めるという方向性を持ち合わせている形で、一番下の、これは事業シートの内容になりますけれども、オンライン英会話、学び支援事業いわゆる英検受検、それから体力向上プログラム、この3つについては、内容そのものは適切であると私たちも思っておりますし、今後の方向性としても、事業費、事業の内容とも維持をしていく考えであるというふうに思っております。

今の3番の成果指標のように達成できていないものもありますので、一番右上のように、この施策としては、総合評価としてやや下回っているという形の評価としてCを私たちは分析の上で評価をしているところでございます。

それから2つ目の施策として、10ページでございますけれども、10ページの施策としては、子どもの「生きる力」を育む質の高い教育環境づくりということでございまして、3番の成果指標としては教員の児童生徒のICT活用を指導する能力に対する肯定的な回答の割合ということで、目標としては令和7年度では80%、小学校中学校とも80%を目標に進めてまいりました。

実績としては、小学校は100%、中学校が73.8%と目標に対して中学校の方は、達していないということにはなっておりますけれども、前年度の6年度と比較すれば、71.6から73.8と一定の上昇をしているという分析をしております。

それから2つ目の指標として、教員1人あたりの1カ月の時間外業務時間。

7年度の目標としては小学校が31時間、それから中学校が53.9時間で、実績としては、小学校が36.4、中学校が55.1とどちらも達成はできていないという状

況となっております。

6年度と比較したら、中学校の方は一定の評価ができるのかなと。

小学校も多少、前年度と比較すると減にはなっておりますけれども、引き続き、目標に対して取組みをする必要があるのではないかという思いをしております、4番の現状としても、ICT支援員によるサポートを実施したところではございます。

それから、教員の業務支援員を各校に配置して、専念できる環境を構築している。

3番目として、部活動指導員を配置して、専門的な技術指導とあわせて教職員の負担軽減に取り組んできたところではございます。

その上で、今の目標達成ができてないという課題としても、ICT支援の継続配置のための人材確保が必要ではないかという思いをしておりますし、時間外の教員の皆さん、減少傾向にはありますけれども、引き続き、働きやすい環境づくりが必要であるのではないかと課題も思っております。

その施策の方向性としても、特にそのGIGAスクール構想等、DX化に伴うものとして業務が増えるというものについては、専門的な人材配置を行う必要があるという思いをしているところでございます。

この施策に基づくものとしては、一番下のところの事業として、ICT支援員の配置業務、教員業務支援員、部活動指導員のそれぞれの配置を事業として進めております。

ICT教育、教員業務については、業務内容としては適切であるという認識をしておりますけれども、部活動指導員については、課題が少しある、何か見直しをする必要があるというような思いもしております。

そういった意味でも、今後の方向性として、ICT支援員についてはさらなる人材の配置に向けた事業費、事業の拡大というのも頭に入れております。

教員の業務支援活動については、事業・費用ともに維持をしていく必要があるかなという思いをしているところでございます。

学校教育課の施策としてはその2点なので、報告をさせていただきました。

社会教育課長

それでは社会教育課の方になりますけれども、6点ございます。

まず資料の14ページ、人権教育の推進というところでございます。

指標として掲げておりますが、人権学習講座参加者数、これを170を目標に取り組んでまいりましたが、実績としては162名でした。

延べ162名の参加がありました。

あと広報ひらおへの人権コラム「つながりぬくもり」の掲載回数でございますけれども、これは各月で6回掲載ということで、これまで頑張ってきたんですけれども、昨年に関しては、2回の掲載にとどまっております。

現状の評価と課題といたしましては、まず、町の人権教育推進協議会において、学校・家庭・地域社会におけるさまざまな人権教育について協議を行い、取組みを進めております。

あと地域における学習機会の充実を図ることを目的に開催する人権学習講座は、7月30日から8月1日にかけて3日行いますけれども、町内学校教職員の参加が多いということでございます。

それと、町内の幼稚園や小中学校においては、人権講演会を開催するなどして、子どもの学習機会も確保はしております。

人権啓発の取組みについては、幅広い視野で人権について発信できる人材確保は困難となっており、要するにコラムを執筆される方がちょっと見つからなくて指標の達成ができておりません。

これが問題となっております。

課題については、人権学習講座は小中学校保護者世代や町内企業関係者の受講が少ない、幅広い世代の受講につなげる周知方法の工夫が必要であると考えております。

そこで施策の方向性として、講座について、若い世代の受講意識につなげる手段として、スマートフォンからの情報収集や申込みの受付体制を整えるということを考えております。

主要事業は、人権学習講座になるのですが、業務内容としては適切であると考えておまして、今後とも進めてまいりたいと思います。

総合評価につきましては、やはりコラムの開催、あそこの成果指標の達成率というところが、ここの評価の基準になってまいりますので、Dとさせていただきます。

次に16ページ、地域で支える子育て環境づくりの推進というところでございます。

成果指標といたしました学校支援ボランティアなどにより学校を訪れる地域の人の人数、また、地域教育ネットコーディネーターの養成講座の修了者数、これを指標にあげております。

7年度におきましては、延べ6,700人のボランティアの方、これを目標にしておりましたけれども、7,253の方がボランティアとして、延べで参加していただいております。

養成講座の修了者数につきましても、今年また1名増えまして、14名の方が終了したということで、2つの指標ともに目標を達成しているところでございます。

その中で、現状と課題といたしましては、地域学校協働活動推進員また地域コーディネーター、これが地域と学校のつなぎ役となり、特色ある事業が幅広く展開されていると考えております。

あと、家庭教育支援チーム、カンガルー応援隊でございますけれども、これによるきめ細かな支援が展開されていると思っております。

それと青少年育成町民会議、また町子連、町の子ども会の社会教育団体等の連携によりまして、子どもにさまざまな体験機会を提供できていると考えております。

あと、令和3年度から立ち上げました「中高生ボランティア活動」、これが定着してまいりまして、町内、近隣市町の中高生が地域へ積極的に参加している。

近年はイベントの企画等にも携わることで、地域行事を盛り上げていっているというところがございます。

あと、地域住民と小中高生による熟議を開催するなど、それぞれの立場で取り組めることを協議する機会を設けています。

課題といたしましては、現時点では、活動が維持できているものにつきましても、新たな人材確保に目を向けて、長期的視野で体制を整える必要があると考えております。

あと、学校支援ボランティア登録、これをタイムリーな情報発信手段による構築が必要であると考えています。

施策の方向性としてしましては、スマートフォンからボランティア登録、ボランティア活動への申込みが可能となるアプリの導入・活用により、学校支援ボランティア活動に関わる人を増やしたい。

生涯学習推進の視点を融合し、学習成果を学習支援活動にも活かすことで、学校を核とした地域ネット事業を展開していきたい、これを拡大したいと考えております。

関係主要事業につきましては、地域教育ネットということで、冒頭にも教育長さんのお話もありましたけれども、業務の内容は適切で、今後も維持してまいりたいと考えております。

総合評価といたしましては、目標を達成しているということで、ここではAとしたいと思います。

次に、18ページ、生涯学習と文化活動の推進になります。

指標といたしましては、文化協会への加入団体数、音楽協会への加入団体数、花いっぱい運動のコンクール参加団体の数というのを指標にあげております。

7年度は、文化協会の団体はそのままでございますけれども、音楽協会が13団体から10団体に3つ減りました。

花いっぱいの花壇の数も25から24、1つ減っております。

その辺りで、現状、課題といたしましては、生涯学習の一環として取り組む「花いっぱい運動」は、町内小学校、平生小3年生が中心ですけれども、学校の教育カリキュラムで参加団体とともに苗の移植を体験する、そういう取組みを理解しながら学習することができております。

芸術文化活動につきましては、関係団体による連携のもと、町の音楽鑑賞会、今年は山口県警の音楽隊でございますけれども、また総合文化展などに取り組みまして、町民への芸術文化鑑賞機会を提供できたと思っております。

ただ、課題といたしましては、やはり高齢化により学習サークル活動の衰退が進んでおります。

特に、音楽分野や活動団体が減少傾向となっております。

生涯学習の活動拠点となる地域交流センターとの情報共有、また多様化する学習形態にも目を向けて、引き続き人材の発掘また育成というところに努めていく必要があると考えております。

施策の方向性としてしましては、総合文化展、町民音楽祭、裾野を広げて運営主体の団体以外の参加を呼びかけることにより、新たな人材発掘、人材確保に努めていこうというところでございます。

主要事業につきましては現状維持というところで、また進めてまいりたいと思います。
総合評価といたしましては、Bとしたいと思います。

次に資料の20ページ、生涯スポーツの推進と地域スポーツの振興のところでございます。

成果指標といたしまして休日の地域部活動の実施、ファミリースポーツ・レクリエーション大会への参加人数というのを指標にあげております。

休日の地域部活動の実施につきましては、なかなか進んでおりませんで、実施するというのを6年度から掲げていたわけですが、実際は今まだ検討にとどまっております。

今年は1回の会議を開催しております。

あと、ファミリーレクリエーションにつきましても、非常に暑いということで、今年度から会場を体育館の方に変更して実施しております。

その辺のキャパの関係もあるのかもしれませんが、460名というのを目標に掲げていましたが、320名の参加となっております。

課題の方ですが、部活動改革については、令和7年12月に国のガイドラインが見直されております。

また県も、今見直しを行っておりますので、この辺を見据えて町の方針の改定が必要であると考えております。

もちろん、町にとって最善の形で改革が展開されるよう考えていく必要があると思っております。

あとファミリースポーツ・レクリエーション大会については、多くの参加者を得ることができるよう開催方法、また、マンネリにならないように内容の検討が必要であると考えています。

施策の方向性としていたしましては町の実情に応じた部活動改革を進めるため、コーディネーターを配置し、学校や地域と連携した取組みを進めてまいりたいと思っております。

主要事業につきましてはそれぞれちょっと課題がありまして、業務の見直しが必要であるところらでも分析しております。

総合評価といたしましては、目標は達成できておりませんのでCということで、評価しているところでございます。

次に23ページ、読書活動の推進になります。

成果指標といたしまして、町立図書館の年間貸出者数、それと年間の貸出冊数ということで目標を立てておりますけれども、今年度については大きく下回っております。

貸出者数が、延べ1万4,600人に対しまして1万118人、達成率は69.3%、貸出冊数についても今までは目標をずっと上回っていたんですが、6万2,400冊に対しまして5万1,428冊、82.4%と、このたびは下回っております。

1つ、影響として考えるのはやっぱり柳井市のみどりが丘図書館。

これができたことによる、人口減少もあるんですけども、その辺の影響があるのかなと分析しております。

評価といたしましては、現状といたしまして、蔵書の充実を図るとともに、ブックスタート・親子ふれあい絵本事業、また、おためし移動図書館等により、乳幼児の時期から本に触れる機会の提供、小中学校への読書機会の提供には努めております。

また、読書ボランティア「おはなし会」の協力によりまして、学校に出向いて読み聞かせ等の積極的な読書活動を進めているところではございます。

課題といたしましては、年1回開催しています「図書館まつり」の主催事業で、もっと魅力のある企画を検討して、利用促進につなげる工夫が必要であると考えております。

施策の方向性といたしましては、ちょっと縮小にはなるんですけども、この3年間、町内の小中学校で試験的に取り組んだおためし移動図書館、これの実績を精査しまして、8年度からは佐賀小学校のみで実施することとしております。

実施校は減らすんですけども、一般の書籍を加えまして、佐賀の地域の方にも貸し出しできるような、そういう取組みをしてみたいと思います。

主要事業といたしましては、蔵書の充実というところでございまして、今後とも維持をしていきたいと考えております。

総合評価といたしましては目標達成していませんので、Cということになります。

最後になりますけれども、社会教育施設や文化財等を活用した社会教育の充実というところでございます。

資料の25ページになります。

成果の指標といたしましては、文化財の指定の数、あと歴史講座、特別展示の開催ということで、令和7年度、指定数は16、歴史講座、特別展の開催については3ということで目標としておりますけど、実績もそれぞれ上回るというか、達成できております。

現状といたしましては、文化財の看板整備や清掃等、適正管理に取り組みました。

あと、町の合併70周年、また戦後80年という節目の年でございましたので、歴史民俗資料館では今昔写真展、また阿多田交流館では平生基地から出撃した若者たちということで、人間魚雷回天の特別展を開催いたしました。

あと、平生中のふるさと体験学習で南蛮樋門の板戸の管理体験ということをしてまして、平生開作の歴史を学ぶ機会を設けました。

課題といたしましては、やはり専門性を有する分野であることから、人材をこれから確保していくということが必要であると思っております。

今後も、この事業については維持していくということで、継続していくということで進めてまいりたいと思います。

総合評価につきましては、目標を達成しているということで、Aという評価を掲げております。

以上でございます。

学校教育課長兼新しい学校づくり推進室長

27ページから45ページまで。

教育委員会に関係する所管の資料として、決算を終えたときに資料を作成しております。

すので、参考にしていただきたいと思います。

学校教育課、社会教育課で説明させていただいた施策評価シートについて、8月7日の教育行政評価委員会にこのシートを出させてもらいますし、この附属資料の27ページからの資料も皆さんにはお届けをすることとしておりまして、点検と合わせて評価をいただくこととしております。

8月7日に予定をしておりますので、お伝えをさせていただきます。

教育長 説明がずっと続きましたけれども、附属資料は今ありましたように参考として見ていただければ、施策評価シートについて、学校教育課の方から。

施策評価シートでいうと、6ページと10ページです。

その続きとして、事業評価シートがずっと続いています。

その2点について、6ページが知・徳・体の調和のとれた子どもの「生きる力」の育成、10ページが子どもの「生きる力」を育む質の高い教育環境づくりということで、総合評価が載っています。

説明のあった総合評価は、成果指標の達成率で自動的にそこで決まってしまうので、そこから総合評価としてCというのがついています。

どんなところでも、総合評価でもいいし、現状でもいいし、課題でもいいし、成果指標のあり方でもいいし、何か気になった点とか疑問に思われたこととかそういうのがあればご質問ください。

これはあくまでも昨年度の実績に対しての評価です、今年度ではなくて。

何かございますか。

伴委員 11ページのコストのところ、令和7年度の予算が半減しているわけですが、日数とか実数とかが減ったということなんですか。

学校教育課長兼新しい学校づくり推進室長

これは日数との関係もあって、実績に対して、今まで4、5、6というのは大体予算どおりだったという推移をしているというふうに見てもらったと思います。

7年度についてはそういった日数の関係で、学校とのやりとりの中ではここまでしか要さなかったという実績の数字になります。

伴委員 だからこれは予算額じゃなくて、執行額ですか。

学校教育課長兼新しい学校づくり推進室長

そうです。

ここの3番のコストについては、決算額ということになります。

教育長 他、何かありますか。

また何かあれば、それでは社会教育課です。
施策評価シートが6枚あります。
それに続けて事業評価シートがついています。
読み上げませんけれども、社会教育課、どこからでも構いません。
何かお気づきやご質問がありましたらお願いします。

廣池委員 生涯スポーツの推進と地域スポーツの振興のところですが、ファミリースポーツ・レクリエーション大会の参加人数の目標値というのはどういうふうに決めていらっしゃるんですか。

社会教育課長

これについては、総合計画で令和3年度に立てた目標でございます。
令和3年度にこういう形で立てた目標でございます。

廣池委員 令和7年度までのものをということですか。

社会教育課長

前期の5年間ということで、こうしていこうということですが、目標からだんだん乖離していったのが見られると思いますけれども。

廣池委員 だんだん人数が減っている現状を鑑みると、高くしていくのもどうなのかなと。
何か指標があるのならば、それに合わせて決めていくと良いのかなと思いました。

社会教育課長

ありがとうございます。

廣池委員 8年度も決まっているのですか。

社会教育課長

後期はこれからというところではございますけれども。

教育長 ご指摘あったように、成果指標を毎年見直してというわけではないんですよ、実は。
だから、達成率が中には170%とかつていう、これ170%というのは本当に成果指標としてふさわしいのかつていうところがあるんですが。
今、課長が説明したように、もう令和3年度に決まってあるのでなかなかその全体を動かすことができない。

廣池委員 図書館の貸出冊数とかもそうなんですか。

社会教育課長

これも同じです。

教育長 そういうお気付き等があれば、お聞かせいただければ。

河内山委員

図書館の図書カードっていうのは、だいたいどこも似たような感じで作られていると思うんですけども、例えば通帳式にするとかはできないんでしょうか。

何月何日に何を借りたとか、どこかよその自治体みたいに借りた日にちと借りた本が印刷できる通帳式みたいな。

そうすると、借りる方も同じものを借りていたというのがないですし、子どもたちも同じ系列の本とか、今度はこれを読んでみようとかの意識付けになるんじゃないでしょうか。

私は、図書館で大体週1回か2週間に1回、月に十何冊借りるんですけども、これ借りていたと思うことがあります。

図書カードというのは大体決まっているけど、それを今から変更するっていうのは。

社会教育課長

あと、読書ノートといって、そこに借りたものをご自身で書き込むようなものは作っているんですけど、ちょっと検討させていただきたいと思います。

河内山委員

どこかの小学校の図書室だったか、子どもたちがそれで自分が読みたい本を決めたりとか、自分の傾向が分かったりとか、友だちのを見て自分もそれを借りてみようと思ったりとか、そういうのがあればいいかなと思うんですけど。

教育長 ありがとうございます。

ちょっとこれ、研究してみましよう。

これだけ読書の数も減っているし、とにかく小中高生なんて本当に少ないので。

富田委員 大体、担い手さん自体が少なくなっている。

以前、話が出たんですが、秋の行事の縮小の話は、町長部局に何かあったんですか。

教育長 去年も評価委員会で話題になりました。

社会教育課長

いろいろ話はいただいていて、内々で話はしているんですけど、まだ実現には至って

ないです。

富田委員 今後の検討。

社会教育課長

イベント自体の目的がそれぞれあるので、一緒にするとなるとなかなか難しい。
検討というところでございます。

教育長 ありがとうございました。

他、何かございますか。

よろしいですか。

また、あとの協議会のときにでも、もし言い忘れたとか実はこれがあったとか、そんなことも何かあればお聞かせください。

それでは、なければ、議案第2号について、承認される方の挙手をお願いします。

挙手全員です。

よって、議案第2号 教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価については、全会一致で承認されました。

本委員会に付議されました案件はすべて終了となります。

それでは、以上で平生町教育委員会会議を閉会いたします。

この会議録は、会議の経過を記載したものであり、その相違ないことを認め署名する。

令和8年8月24日

教育長 中 本 稔

委 員 富 田 克 敏

委 員 廣 池 康 子

書 記 岩 田 成 司